

コロナ関連の倒産が急増！ 今こそ“逆境の適応力”を発揮するとき

2022年10月19日日刊ゲンダイ



コロナの感染者数は落ちてきましたが、倒産件数は増えています。東京商工リサーチによると、コロナ関連の経営破綻は、9月200件余りで、前の年の同じ月に比べ3割増加しています。

資金繰りに困る年末は、暖房代の負担も増えて、利益率が減少、もし来年、金利が上がれば、借金もしづらくなります。コロナ支援として銀行から低金利や無

利子で借りた返済も負担になります。倒産件数は増加の一途でしょう。

2021年の年間倒産件数は1700件余りで、20年に比べて2倍に増加しています。今年は、すでに9月までで1600件余りにも増えていて、昨年より悪化するのには目に見えています。倒産は、コロナで休業したり、夜8時までの閉店要請などのあった飲食業が最多です。お米やレモンなどの需要への影響、卸しているお酒などの飲食料品卸売業も悪影響を受けています。

コロナで建築のスケジュールなどが延期になった建設業はワースト2位で、次に、在宅ワークが進み服を買わなくなったアパレル関連（製造、販売）が続いています。

在宅ワークが定着したアパレル業、閉店が早くなった飲食店の回復には時間がかかるかもしれません。

■ここ1ヶ月で4万人が失業

破綻したということは、働いていた人は仕事を失うことになります。この1ヶ月で破綻した企業に勤務していた従業員数は、4万人近くにもなっています。従業員5人未満の小規模事業者が半数以上を占めています。

1年以上仕事がない長期失業者は64万人にもなり、リーマン・ショック以来の規模です。中でも若者が多いのが特徴です

以前は高卒・短大・専門学校卒を採用していた小売販売店が、大卒者を採用するようになっており、希望先に就職できなかった高卒・短大・専門学校生が増えています。

人手不足とはいえ、正社員の採用を控え出した企業も増えており、新入社員なのに1年でリストラにあたり、在学中のアルバイトから数年後に第二新卒でやっと正社員になったと思ったら失業、職を失った例も増えています。

こんな時こそ、レジリエンス（逆境の適応）力を発揮し、希望の職業につくための基礎を学ぶ準備期間だと割り切って、働き続けることです。就職浪人中のさまざまなアルバイト体験は、次のキャリアにつながります。